

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群	4. 授業形態／授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科目 分野／科目区分／ 区分等	イノベーション科目	6. DPコード／分野コード ／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学の知の活用 (英文名) Practical use of university's intellectual property				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) 無し (英文名) 無し				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 山本 光治 (ローマ字) Koji Yamamoto				
10. 時間割コード／申請 コード／授業コード		11. 昼夜			
12. 単位数	2単位	13. 選必区分／単位区 分	無し		
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	初年次対象		
16. 曜日・時限	無し	17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	四国地域の大学、産学官連携、イノベーション、研究、知的財産 university in Shikoku, industry-academia-government collaboration, innovation, research, intellectual property				
21. 授業概要	本講義では、大学の知の活用に必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを紹介する。			<input checked="" type="checkbox"/>	
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学の知の活用に必要な基礎知識及び四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを知ることにより、その必要性や大学と地域との関わりを理解することを目的とする。			<input checked="" type="checkbox"/>	
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 大学の知の活用に必要な基礎知識を説明できる。 2. 四国地域の大学の知の活用に関する取り組みを列挙できる。 3. 大学の知の活用の必要性を実感する。			<input checked="" type="checkbox"/>	
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					
25. カリキュラムマッ プ(授業科目の主題・ 授業科目の到達目標 とカリキュラムマップ)					

<p>26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 井内健介・元徳島大学准教授「大学の知の活用の全体像」 2. 秋丸國廣教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識①」 3. 恒川典之特任教授・高知大学「大学の知の活用に必要な基礎知識②」 4. 中川勝吾教授・愛媛大学「大学の知の活用に必要な基礎知識③」 5. 秋丸國廣教授・愛媛大学「大学の産学連携における地域貢献」 6. 石塚悟史教授・高知大学「大学の地域貢献」 7. 合谷祥一・元四国TLO代表取締役社長「四国地域における大学の知の活用に関する取組①」 8. 合谷祥一・元四国TLO代表取締役社長「四国地域における大学の知の活用に関する取組②」 9. 永富太一教授・香川大学「文系領域の産学連携プロジェクト」 10. 永富太一教授・香川大学「コンソーシアムからの産学連携プロジェクト」 11. 石塚悟史教授・高知大学「一次産業分野における産学連携」 12. 秋丸國廣教授・愛媛大学「愛媛大学における産学連携事例」 13. 松下一郎客員教授・徳島大学「青色LEDにおける大学の基礎研究の活用」 14. 久保田邦昭客員教授・徳島大学「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携①」 15. 久保田邦昭客員教授・徳島大学「バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携②」 	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>27. 授業時間外学習にかかわる情報</p>	<p>講義後に関連する事項について復習する。</p>	<input type="checkbox"/>																	
<p>28. 成績評価の方法と基準</p>	<p>本授業はe-ラーニング形態です。 各回で出題する小課題(100%)で成績評価をおこない、6割以上を合格とします。 ただし、各回の小課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績を判定しません。</p>	<input type="checkbox"/>																	
<p>29. 再試験の有無</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">自大学学生向け</td> <td>無し</td> </tr> <tr> <td>連携大学学生向け</td> <td>無し</td> </tr> </table>	自大学学生向け	無し	連携大学学生向け	無し	<input type="checkbox"/>													
自大学学生向け	無し																		
連携大学学生向け	無し																		
<p>30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限</p>	<p>受講人数制限:あり 香川大学25名・徳島大学25名・鳴門教育大学25名・高知大学25名・愛媛大学25名</p>	<input type="checkbox"/>																	
<p>31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの</p>	<p>この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください(e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上で、本科目を履修するようにしてください。</p>	<input type="checkbox"/>																	
<p>32. 教科書(購入の必要のある図書)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>	教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
教科書1	書名																		
	ISBN			著者名															
	出版社			出版年															
	金額		備考																

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせはメールにてお願いします。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	物理的に徳島大学への訪問は困難だと推測されますので、問い合わせはメールにてお願いします。			<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 研究支援・産官学連携センター 山本光治教授 koji.yamamoto(a)tokushima-u.ac.jp ※(a) → @			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	香川大学 産学連携・知的財産センター 永富教授 nagatomi.taichi(a)kagawa-u.ac.jp ※(a) → @ 高知大学 次世代地域創造センター 地域イノベーション部門 恒川特任教授 kt05(a)kochi-u.ac.jp ※(a) → @ (全角を半角に修正) 愛媛大学 研究・産学連携推進機構 秋丸教授 akimaru.kunihiro.mu(a)ehime-u.ac.jp ※(a) → @ 鳴門教育大学 知的財産室 宮本教授 kmiyamot(a)naruto-u.ac.jp ※(a) → @ (大文字を小文字に修正)			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験	民間企業、技術移転機関、政府系機関等において、知的財産の活用に関する実務経験を有する講師が、大学の知を活用するために実務上、必要な基礎知識を紹介した上で、四国地域における具体的な大学の知の活用に関する取り組みを、実例を交えて講義する。				<input checked="" type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き				<input type="checkbox"/>	
42. その他／備考	無し				<input type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	生活と社会	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 大学教育を考える (英文名) Thinking on University Education			
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 無し (英文名) 無し			
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 吉田博 (ローマ字) Hiroshi YOSHIDA			
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜		
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分		
14. 対象学生	1～2年生	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1・2年次/全学部	
16. 曜日・時限		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	無し	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	大学教育政策, 学士課程, 学士力, 学生の主体的学習, ファカルティ・ディベロップメント(FD) Higher education policy, Undergraduate Program, Graduate Attributes ,Active learning, Faculty development			
21. 授業概要	大学教育に関する14のトピックについて、関連する知識を得るとともに、各トピックに関連する問題点を考えることが本授業の目的です。			<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学で能動的に学習を行う上で、大学と社会との繋がりや関わり、そして大学で学ぶことの意義について整理し、再考する必要があると考えます。そこで、現在の大学教育におけるさまざまな課題を、世界の動向、日本の高等教育政策の動向を踏まえつつ理解することで、自身の学習・研究とどのように向き合うべきかを考え、能動的に学習していくためのきっかけを掴みます。			<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 日本の大学教育の現状(背景・課題)を説明することができる 2. 大学教育に関する課題について自らの意見を持つことができる 3. 自身の大学生生活を振り返り、残りの学生生活をどのように送るのが良いかを考えるきっかけを掴むことができる			<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)				

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)	
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>1. ガイダンス, 大学生へのメッセージ (吉田・久保田)</p> <p>2. 大学生が4年間で身につける力とはなにか: 学士力を考える (久保田)</p> <p>3. 単位制度とはなにか: 大学のカリキュラムを考える (久保田)</p> <p>4. 初年次教育はなぜ必要か: その役割を考える (吉田)</p> <p>5. 教養教育はなぜ必要か: その役割を考える (久保田)</p> <p>6. 学生の学びを促進する授業とはなにか: アクティブ・ラーニングを考える (吉田)</p> <p>7. 大学生は学んでいるか: 大学生の学習時間を考える (吉田)</p> <p>8. 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか: 図書館の学習支援を考える (吉田)</p> <p>9. 大学における学生支援とはなにか: 正課外の学びを考える (吉田)</p> <p>10. 成績評価とはなにか: 公正な評価に向けた課題を考える (久保田)</p> <p>11. 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか: 大学の教育改善を考える (久保田)</p> <p>12. 大学教員に必要な学びとはなにか: FDを考える (吉田)</p> <p>13. 大学を取り巻く動向を考える: ①国内外の高等教育政策の動向 (久保田)</p> <p>14. 大学を取り巻く動向を考える: ②障がい学生に対する支援 (久保田)</p> <p>15. 大学を取り巻く動向を考える: ③大学教育におけるジェンダー (久保田)</p> <p>16. 定期試験(レポート)</p> <p>※担当講師: 吉田 博 (徳島大学高等教育研究センター) 久保田祐歌 (関西福祉科学大学社会福祉学部)</p>
27. 授業時間外学習にかかわる情報	<p>本授業では、e-Learningによる授業動画を視聴した後に、クイズに答え、小レポート課題を作成します。また、小レポートをもとに他者との意見交換を行うことが必要としています。小レポートを作成する際には、授業動画の内容だけでなく、授業のテーマに関連する資料や文献などを見て、自身の理解や考えを深めたうえで作成してください。</p>
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回のクイズ(15点)、毎回の小レポート提出(15点)、他者のレポートへのコメント(15点)、コメントに対する返信(15点)、期末レポート(40点)の合計得点で成績をつけます。単位取得の最低条件は、この合計得点が60点以上であることです。</p> <p>※毎回の授業におけるクイズ、小レポート、他者へのコメント、コメントへの返信(60点配点)については、次のように確認します。吉田担当の授業(1,4,6,7,8,9,12回)の小テスト、小レポート、コメント等(28点配点)は毎回の締め切り直後に確認し、得点をつけます。他者からのコメントがない小レポートについては担当教員がコメントを行います。久保田担当の授業(2,3,5,10,11,13,14,15回)は、小テスト、小レポート、コメント等(32点配点)は、学期末にまとめて確認しますが、すべての回の確認は行わずに、いずれか1回のみを確認し、吉田担当の授業の課題提出状況等を踏まえて総合的に判断して得点をつけます。したがって、小レポートに他者からのコメントが付かない場合もありますが、他の回の取り組み方を踏まえて総合的に評価を行うため、他者からのコメントがあった場合のみ返信して下さい。</p> <p>※成績評価を行うための条件として、毎回のクイズを10点以上、毎回の小レポート・他者へのコメント・コメントに対する返信を30点以上獲得していることとする。</p> <p>※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない。</p> <p>※期末レポートを提出していない場合は成績判定しない。</p>

29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し			<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名				<input checked="" type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	本講義はフルオンデマンドで実施されるため講義室での授業は行わない。また、受講制限をかけるので、大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブページに掲載している履修登録の手続きをよく読んで、期限内に手続きを済ませること。期限内に登録を完了できなかった場合は履修を許可しない。 URL: https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	無し		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)で問い合わせてください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け				<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)			<input checked="" type="checkbox"/>	

	連携大学 学生向け	電子メール(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験			<input type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き		<input type="checkbox"/>
42. その他／備考	無し		<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	自然と技術		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 数理科学の展開 (英文名) Mathematics in various phenomena				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西 計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全年次／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	正多面体, 対称性, 小説, 美術, 歴史, パズル, 初等数学 regular polyhedron, symmetry, fiction, fine arts, history, puzzle, elementary mathematics				
21. 授業概要	数理科学の展開は前期の数理科学の世界を受けた講義ですが、前期と同じく一回ごとにテーマを決めて、原則一回完結の講義を行いますので、内容としては数理科学の世界とは独立しています。ですので本講義に於いては数理科学の世界を事前に受講する必要はありません。数理科学の展開では数理科学の世界よりも数学の比重が少し大きい話題を中心にした構成がされています。講義は数学の歴史、数学の応用について、文学、美術や音楽に関係した数学理論、数学者の人間像などについて行いますが、レベル的には数理科学の世界と同じく高校数学の内容で充分理解できるものです。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	数学は公式を当てはめて答えを出す印象が強い人も多いですが、本来はもっと生き生きとした内容の学問で、世の中の様々な事柄に関わっています。本講義では前期の数理科学の世界で紹介した内容よりも数学の色合いが濃く出ている世の中の事象について紹介していくつもりです。この講義を通して人間の様々な知的活動と数学の関りは深いと言う事を感じてもらい、結果として皆さんの数学に対する認識や理解が深まって頂ければと思います。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	・数学的概念や「数学する」ことを実感する。 ・数学が嫌いでなくなる。				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数について 2. 方程式の歴史 3. 白鳥の湖 4. ゲルハルト・リヒター 5. 定規と折り紙 6. バベルの図書館 7. アルキメデスの求積法 8. ニュートンとライブニッツ 9. 中国の数学と日本の塵劫記 10. 賭博の数学 11. 四色問題 12. 計算の話 13. ゲームの数学 14. 経済学 15. デカルトと座標 <p>教科書は使いません。毎回資料を提示します。講義は原則一回完結を目指しています。</p> <p>毎回の授業では、ビデオや資料の視聴と小テスト(30問程度の問題群から10問程度をランダムに出題)があります。</p>	☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	適宜、参考資料を提示します。	☐
28. 成績評価の方法と基準	<p>本科目に関しまして以下の基準で評価をさせていただきます。</p> <p>1:毎回の資料及び動画は必ずMoodleにアクセスの上ご確認ください。全資料を確認して、「感想」を記入頂きますと一回の出席になります。一回の出席は1点に評価します。なお、「感想」の提出回数が10回未満の場合は、著しい減点を加えることがあります。</p> <p>2:毎回30問の○×で答える小問が用意されています。15回の講義ですので合計で450題になります。期末試験にて各受講者へ、その450題の中から各回の問題よりランダムに6題選択され合計90題をweb上で出題しますのでweb上で解答してもらいます。</p> <p>3:講義16回目が期末試験になります。通常の講義の時間に解答してもらいますので解答時間は90分になります。尚ランダムに問題を選択しますので、期末試験で選択される問題は受講者ごとに異なります。</p> <p>正解の場合は1問1.5点で評価させていただきます(不正解は0点)</p> <p>4:上記1:と3:の合計点を100点換算した得点(但し小数点以下は四捨五入)が最終得点になります。つまり</p> <p>$((\text{出席の点数} + \text{期末試験の点数}) / 150) \times 100$ の小数点以下四捨五入が最終得点です。この得点で評価します。</p> <p>5:毎回用意される30題は自主学習として講義終了後に何回も解答が可能です。ただし、この自主学習</p>	☑

	の解答結果は評価には加えません。授業計画は修正になることがあります。詳細は授業支援システム(Moodle)にあげます。					
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		<input type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	なし				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし 香川大学__名・徳島大学__名・鳴門教育大学__名・高知大学__名・愛媛大学__名			<input checked="" type="checkbox"/>		
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第15回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります。受講方法の詳細については、LMS内のガイダンスを参照してください。			<input checked="" type="checkbox"/>		
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			<input type="checkbox"/>	
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucl.kagawa-u.ac.jp/			<input type="checkbox"/>		
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>		
38. オフィスアワー	自大学学生向け	電子メールを利用してください。		<input type="checkbox"/>		
	連携大学学生向け	電子メールを利用してください。		<input type="checkbox"/>		

39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験			<input type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応			<input type="checkbox"/>
42. その他／備考			<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教育科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング教材による非同期型授業 自学自習		
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	人間と生命	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 文化心理学入門 (英文名) An Introduction to Cultural Psychology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 無し (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西 計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜			
12. 単位数	1	13. 選必区分／単位区 分	なし		
14. 対象学生	全学生	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	無し		
16. 曜日・時限	無し	17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	心理学、教育、学習、発達、認知／psychology, education, learning, development, cognition				
21. 授業概要	心理学のなかでも、ヒトの心と道具、社会、歴史との関連に着目する「文化心理学」あるいは「社会・文化・歴史的アプローチ」と呼ばれる理論群について、具体的な研究事例を挙げながら講義する。また、文化心理学の観点から、教育実践や学習支援・発達支援実践における指導者・支援者の役割について考察する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	心理学の歴史を知ること、社会・文化・歴史的アプローチの必要性を理解する。また、文化心理学における認知・学習研究の枠組みと具体的な研究成果について知ること、ヒトの心を捉えるための方法論について理解すると共に、「人間科学」としての心理学のアプローチについて考える。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. ヒトの心と社会、文化、歴史との関係について説明できる。 2. 自らが就職を希望している領域において、文化心理学的観点から取り組める課題解決について考える。				<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)					

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)																					
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「科学的な方法」ってなに？-心の社会・文化・歴史性- 2. 「個人」と「社会」はどちらが先か？-ピアジェとヴィゴツキーの考え方- 3. 「道具」は何を変える？-「媒介された行為」の概念- 4. 実験室は「真空」か？-心理学実験の生態学的妥当性- 5. 世界がヒトに「語りかけてくる」？-生態学的心理学とアフォーダンス- 6. 学習は「獲得」か？-状況的学習論- 7. 学校はなにを教えるのか？-学校教育への社会・文化的アプローチ- 8. 大人は子どもになにができる？-ポストモダンの発達支援- 			<input checked="" type="checkbox"/>																	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の授業後に、簡単な小レポートの提出を求めます。また、最終コマの終了後には期末レポートを課します。それまでの授業内容をしっかりと復習した上で、レポート課題に取り組んでください。			<input checked="" type="checkbox"/>																	
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の小レポートを合計40点満点、期末レポートを60点満点で評価し、下記の2点両方を満たした者を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合計点が60点以上である。 ・小レポートを5回以上提出している。 			<input checked="" type="checkbox"/>																	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input checked="" type="checkbox"/>																	
	連携大学学生向け	無し																			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学40名・徳島大学40名・鳴門教育大学40名・高知大学40名・愛媛大学40名</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。</p>			<input checked="" type="checkbox"/>																	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" data-bbox="371 1570 1414 1765"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="text-align: center;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ISBN</td> <td></td> <td style="text-align: center;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">出版社</td> <td></td> <td style="text-align: center;">出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">金額</td> <td></td> <td style="text-align: center;">備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
教科書1	書名																				
	ISBN		著者名																		
	出版社		出版年																		
	金額		備考																		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名	文化心理学－発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ			<input type="checkbox"/>
		ISBN	978-4788508170	著者名	マイケル・コール	
		出版社	新曜社	出版年	2002	
		金額	5,500 + 税	備考		
	参考書2	書名	社会と文化の心理学－ヴィゴツキーに学ぶ－			
		ISBN	978-4790715375	著者名	茂呂雄二・田島充士・城間祥子(編)	
		出版社	世界思想社	出版年	2011	
		金額	2,500 + 税	備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目		<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け				<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			<input type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験					<input type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き				<input type="checkbox"/>	
42. その他／備考					<input type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期		
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	地域科学科目	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 徳島を考える (英文名) Geography and Culture of Tokushima				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 豊田 哲也 (ローマ字) Toyoda Tetsuya				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜			
12. 単位数	1	13. 選必区分／単位区 分	なし		
14. 対象学生	1～2年全学部	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1・2年次／全学部		
16. 曜日・時限	なし	17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	徳島県、自然、歴史、伝統、産業 Tokushima prefecture, Nature, History, Tradition, Industry				
21. 授業概要	徳島県の自然環境や歴史、文化、経済、社会に関するテーマを様々な側面から取り上げて講義する。具体的には、吉野川の地形環境、藍産業の歴史、特産地の形成、四国遍路や阿波踊りなどのトピックスを紹介する。				<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	わたしたちはグローバルな時代にありながらも同時にローカルな社会に生きている。インターネットがいかに発達したとしても、自宅を建てたり(居住)、学校で学んだり(教育)、職業に就いたり(労働)、病院に行ったり(医療)、わたしたちの生活の基盤が地域の社会や経済の上に成り立っていることは変わらない事実である。東日本大震災の経験は、わたしたち一人一人の運命もまた地域の環境や共同体と不可分であることを教えてくれた。わたしたちがよりよい未来を望むならば、身のまわりの地域がどのような特性を持っているのか、いかなる課題に直面しているのかを理解し、持続可能な地域づくりを進めていかなければならない。もちろん、一言で地域的課題と言ってもその内容はさまざまである。大都市地域では人口集中や産業空洞化が叫ばれる一方、「地方」では過疎や人口高齢化などが深刻化し、伝統文化も大きく変容してきている。こうした地域差には、それぞれの地域における地理的・歴史的・文化的な背景の違いが反映されている。この講義では身近な地元である徳島県を取り上げ、さまざまな視点から地域の特性を明らかにし、取り組むべき地域的課題について考察する。				<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	他県の人に対して、以下の項目を説明できる。 1. 徳島県の自然や歴史と伝統文化 2. 徳島県の産業や経済の特色				<input type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)					
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)					
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>【授業計画】</p> <p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 吉野川の自然と歴史 2 徳島の発展を支えた藍 3 すだちの特産地形成 4 四国遍路の歴史と魅力 5 阿波おどりの伝統と伝播 6 上勝町の地域ブランド形成 7 神山町の地域再生プロジェクト 8 地域の真の豊かさとは 			<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課しています。しっかり復習してから小テストを受験してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
28. 成績評価の方法と基準	各回で出題する小課題(100%)で成績評価をおこない、6割以上を合格とします。ただし、小テストの受験(提出)回数が全体の2/3に満たない場合は成績を判定しません。			<input checked="" type="checkbox"/>	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し		<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	無し			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	徳島大学教養教育院で開講される「徳島を考える」を受講済みの学生は、この授業を受講できない。 受講人数制限:あり 香川大学50名・徳島大学50名・鳴門教育大学50名・高知大学50名・愛媛大学50名			<input type="checkbox"/>	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	第1回目から第8回目までの受講はすべて、インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となる。動画コンテンツを視聴する際は、話のポイントをノートに書き取るなど、主体的な学習態度を心がけること。その他受講方法の詳細については、Moodle上のガイダンスを参照すること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
32. 教科書(購入の必要のある図書)					<input type="checkbox"/>
	教科書1	書名			
		ISBN	著者名		
		出版社	出版年		
		金額	備考		

33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input checked="" type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要。Moodleの操作ができること。	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		<input type="checkbox"/>	
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	電子メール (toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	電子メール (toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp) を利用してください。			<input checked="" type="checkbox"/>	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
	連携大学 学生向け	toyoda.tetsuya@tokushima-u.ac.jp			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験					<input type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応					<input type="checkbox"/>	
42. その他／備考	なし				<input type="checkbox"/>	

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026		2. 開講学期	後期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	生活と社会		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 学びをデザインする: インストラクショナルデザイン入門				
	(英文名) Designing for Learning: A Guide to Instructional Design				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 田巻 公貴				
	(ローマ字) Tamaki Koki				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全年次／全学部	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	特になし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	特になし
	連携大学 学生向け	特になし		連携大学 学生向け	特になし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	インストラクショナルデザイン, 学習理論, 授業設計, 研修設計, 教育工学 Instructional Design, Learning Theories, Lesson Plan, Training Design, Educational Technology				
21. 授業概要	<p>みなさんは、これまで様々な学びの場を経験してきたと思います。その中で、この授業は面白い！もっと学びたい！と感じたことはあるでしょうか。そして、どうしてよいと感じたのでしょうか。本授業では、よい学びの場を自ら設計できるようになることを目指します。</p> <p>インストラクショナルデザイン(Instructional Design: ID)とは、教育活動の効果・効率・魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またそれらを応用して学習支援環境を実現するプロセスを指します。</p> <p>本授業では、学習理論の変遷から、授業設計の方法、学習者への動機づけ、評価方法など、IDの基本的な理論を扱います。さらに、ICTやAIなどのテクノロジーを活用した授業設計や、新たな学びに対応し続けるために必要な要素についても探求します。そして、学びをもとに、授業・研修・ワークショップ等を実際に設計していきます。</p> <p>本授業を通じて、みなさんが設計する学びの場が、学習者の成長を支援するための授業設計となることを目指します。</p>				
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	<p>本授業の目的は、インストラクショナルデザインの知識・技能を習得し、効果的・効率的・魅力的な学びの場を設計できる力を身につけることを目指します。インストラクショナルデザインの理論と実践を通して、教育現場や、企業研修など様々な場面の学習環境を設計・改善できる人材への成長を目標とします。インストラクショナルデザインの専門家として、学習者の学びを支援し、よりよい社会の実現に貢献できる素養を養います。</p>				

<p>23. 授業の到達目標 ／学修課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ID諸理論についての説明ができるようになる ・ID諸理論に基づいた授業設計ができる ・多様な学習者や学習目標に応じた学びの場を設計することができる ・ICTやAIなどの新しい教育技術を学びに組み込むことができる ・設計した学びの場を批判的に考えることや、改善を行うことができる 	<input type="checkbox"/>
<p>24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)</p>		
<p>25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)</p>		
<p>26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育工学とインストラクショナルデザインの概要 2. 授業設計の考え方 3. 学力と学習目標の設定方法 4. 教材研究とその活用方法 5. 学習者分析の方法と活用 6. 授業を構成する要素と設計 7. 授業の成果を評価する方法 8. 学習意欲の基礎 9. 動機づけ理論の応用 10. 新しい学習観と学びの多様化 11. 学習者中心設計の実践 12. ICT・AIの活用による学びの拡張 13. 学習分析の基礎 14. eラーニングと反転授業の設計 15. 授業研究と授業改善の方法 16. 最終課題 <p>※授業内容は変更になる可能性があります。</p> <p>教科書等はいりません。</p> <p>参考書として、各講義内容をより深く学びたい方に向けた参考文献を、講義毎に提示します。</p> <p>毎回の講義では、ビデオの視聴と、講義内容に応じた課題があります。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>27. 授業時間外学習 にかかわる情報</p>	<p>各講義を受講した後、講義内容に応じた課題を課しています。</p> <p>一例として、ミニテスト、レポート、フォーラムでの議論、授業設計などがあります。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>28. 成績評価の方法 と基準</p>	<p>本授業に関する成績評価基準は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業でのミニテスト(15%)・・・講義で紹介した理論等が理解できているか評価します。 ②課題の提出と質の評価(45%)・・・授業設計課題、レポート等について、学んだ理論を反映して行えているか、情報収集し自分の意見を述べられているかを評価します。 	<input type="checkbox"/>

	<p>③フォーラムへの参加(30%)…フォーラムへの参加状況, コメント内容等を評価します.</p> <p>④最終課題(10%)…最終成果物(授業指導案)を評価します.</p> <p>単位修得の要件は, 学修目標の6割以上とします.</p> <p>※課題提出回数が全体の2/3に満たない場合は成績判定しない.</p> <p>※最終課題を提出していない場合は成績判定しない.</p> <table border="1" data-bbox="371 432 1409 869"> <tr> <td data-bbox="371 432 759 483">ミニテスト</td> <td colspan="3" data-bbox="759 432 1409 483">各授業内容に即したミニテストを実施します.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 483 759 674">フォーラムへの投稿・返信</td> <td colspan="3" data-bbox="759 483 1409 674">各授業内容に関する設問への回答をフォーラムに投稿してもらいます. その後, 他の学生の投稿に対してコメントを行ってもらいます.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 674 759 770">フォームへの投稿</td> <td colspan="3" data-bbox="759 674 1409 770">各授業内容に関連した質問を出題し, その解答をフォームに入力してもらいます.</td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 770 759 869">課題の提出</td> <td colspan="3" data-bbox="759 770 1409 869">レポートや授業指導案などをWord等で作成し, 提出してもらいます.</td> </tr> </table>				ミニテスト	各授業内容に即したミニテストを実施します.			フォーラムへの投稿・返信	各授業内容に関する設問への回答をフォーラムに投稿してもらいます. その後, 他の学生の投稿に対してコメントを行ってもらいます.			フォームへの投稿	各授業内容に関連した質問を出題し, その解答をフォームに入力してもらいます.			課題の提出	レポートや授業指導案などをWord等で作成し, 提出してもらいます.												
ミニテスト	各授業内容に即したミニテストを実施します.																													
フォーラムへの投稿・返信	各授業内容に関する設問への回答をフォーラムに投稿してもらいます. その後, 他の学生の投稿に対してコメントを行ってもらいます.																													
フォームへの投稿	各授業内容に関連した質問を出題し, その解答をフォームに入力してもらいます.																													
課題の提出	レポートや授業指導案などをWord等で作成し, 提出してもらいます.																													
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし		<input type="checkbox"/>																										
	連携大学学生向け	なし																												
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学50名・徳島大学50名・鳴門教育大学50名・高知大学50名・愛媛大学50名</p>			<input type="checkbox"/>																										
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>第1回目から第15回目までの受講はすべて, インターネットに接続できるパソコンからMoodleとよばれるLMS(Learning Management System)にアクセスしてe-Learningコンテンツを視聴する形態となります. 受講方法の詳細については, LMS内のガイダンスを参照してください.</p>			<input type="checkbox"/>																										
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<p>教科書は設定しませんが, 以下に参考書を紹介します. 興味に応じて, 積極的に読んでみてください.</p> <table border="1" data-bbox="371 1375 1409 1574"> <tr> <td data-bbox="371 1375 520 1426" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="520 1375 676 1426">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 1375 1409 1426"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1426 676 1471">ISBN</td> <td data-bbox="676 1426 951 1471"></td> <td data-bbox="951 1426 1107 1471">著者名</td> <td data-bbox="1107 1426 1409 1471"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1471 676 1516">出版社</td> <td data-bbox="676 1471 951 1516"></td> <td data-bbox="951 1471 1107 1516">出版年</td> <td data-bbox="1107 1471 1409 1516"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1516 676 1574">金額</td> <td data-bbox="676 1516 951 1574"></td> <td data-bbox="951 1516 1107 1574">備考</td> <td data-bbox="1107 1516 1409 1574"></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>									
教科書1	書名																													
	ISBN		著者名																											
	出版社		出版年																											
	金額		備考																											
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" data-bbox="371 1619 1409 2101"> <tr> <td data-bbox="371 1619 520 1861" rowspan="4">参考書1</td> <td data-bbox="520 1619 676 1715">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 1619 1409 1715">授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1715 676 1760">ISBN</td> <td data-bbox="676 1715 951 1760">978-4-7628-2883-6</td> <td data-bbox="951 1715 1107 1760">著者名</td> <td data-bbox="1107 1715 1409 1760">稲垣忠, 鈴木克明(編著)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1760 676 1805">出版社</td> <td data-bbox="676 1760 951 1805">北大路書房</td> <td data-bbox="951 1760 1107 1805">出版年</td> <td data-bbox="1107 1760 1409 1805">2015年</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1805 676 1861">金額</td> <td data-bbox="676 1805 951 1861">2200円+税</td> <td data-bbox="951 1805 1107 1861">備考</td> <td data-bbox="1107 1805 1409 1861"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="371 1861 520 2101" rowspan="2">参考書2</td> <td data-bbox="520 1861 676 1906">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="676 1861 1409 1906">インストラクショナルデザインの原理</td> </tr> <tr> <td data-bbox="520 1906 676 2101">ISBN</td> <td data-bbox="676 1906 951 2101">978-4-7628-2573-6</td> <td data-bbox="951 1906 1107 2101">著者名</td> <td data-bbox="1107 1906 1409 2101">R.M.ガニェ, W.W.ウエイジャー, K.C.ゴラス, J.M.ケラー(著) 鈴木 克明, 岩崎 信(監訳)</td> </tr> </table>			参考書1	書名	授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン			ISBN	978-4-7628-2883-6	著者名	稲垣忠, 鈴木克明(編著)	出版社	北大路書房	出版年	2015年	金額	2200円+税	備考		参考書2	書名	インストラクショナルデザインの原理			ISBN	978-4-7628-2573-6	著者名	R.M.ガニェ, W.W.ウエイジャー, K.C.ゴラス, J.M.ケラー(著) 鈴木 克明, 岩崎 信(監訳)	<input type="checkbox"/>
参考書1	書名	授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン																												
	ISBN	978-4-7628-2883-6	著者名		稲垣忠, 鈴木克明(編著)																									
	出版社	北大路書房	出版年		2015年																									
	金額	2200円+税	備考																											
参考書2	書名	インストラクショナルデザインの原理																												
	ISBN	978-4-7628-2573-6	著者名	R.M.ガニェ, W.W.ウエイジャー, K.C.ゴラス, J.M.ケラー(著) 鈴木 克明, 岩崎 信(監訳)																										

	出版社	北大路書房	出版年	2007年	
	金額	3800円+税	備考		
	書名	学びを育む 教育の方法・技術とICT活用 教育工学と教育心理学のコラボレーション			
	ISBN	978-4-7628-3242-0	著者名	岩崎 千晶, 田中 俊也(編著) 山田 嘉徳, 中谷 素之, 平山 るみ, 木村 明憲, 根本 淳子, 渡辺 雄貴, 宇治橋 祐之, 黒上 晴夫, 中川 一史, 今野 貴之, 林 向達, 植田 詩織, 岸 磨貴子, 山田 剛史, 遠海 友紀, 久保田 賢一, 小柳 和喜雄(著)	
	出版社	北大路書房	出版年	2024年	
	金額	2300+税	備考		
34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/				<input type="checkbox"/>
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		<input type="checkbox"/>
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	質問等は, 下記連絡先を参照してください.			<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け				<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 田巻研究室 Email: tamaki.koukiあつとtokushima-u.ac.jp ※あつと→@			<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	Email: tamaki.koukiあつとtokushima-u.ac.jp ※あつと→@			<input type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験	高等学校教員としての実務経験を持っています. 実務経験と, 本講義で扱うID諸理論を結びつけ, 理論と実践の両面から内容を構成し, 授業を実施します.				<input type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応					<input type="checkbox"/>
42. その他／備考					<input type="checkbox"/>

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	人間と生命	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	bcxG
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 知の探訪 (英文名) Guidance of Human Intelligence		
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) (英文名)		
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide		
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	初年次対象
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 連携大学 学生向け	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け 連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	徳島大学、研究、科学技術 / Tokushima University, Research, Technology		
21. 授業概要	大学における学習について、主体的に学習を進める態度を身につける。大学における「研究する」ということに関し、自らの言葉で説明できるようになることを目指す。		<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	大学に入ると、それまでの高校とは、全く異なった学びの方法を身につけなければなりません。とくに、大学では「研究する」ということが、学びの中心に据えられます。いきなり「研究する」ことを要求されても、戸惑うことも多いと思います。そこで、大学における学びを学ぶため、皆さんと一緒に大学において「研究する」とは何なのかを考えていきたいと思っています。皆さんが、大学での学びをスムーズに始めるための、導入役目を果たしたいと考えています。		<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	徳島大学の特徴について理解し説明できる 研究分野の多様性について理解し説明できる 研究と呼ばれる活動がどのようなものであるか説明できる 大学における自らの学習目標と研究の関連性について理解し説明できる		<input checked="" type="checkbox"/>
24. ディプロマ・ポリシ ー(卒業時の到達目 標・共通教育の理念・ 教育方針に関わる項 目)			

25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>①金西計英・高等教育研究センター「ガイダンス」 ／野地 澄晴・元 徳島大学学長「徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学」</p> <p>②高石 喜久・元 徳島大学副学長「ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう」</p> <p>③金山博臣・大学院医歯薬学研究部「手術治療の新たな展開:ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術」 梶龍児・大学院医歯薬学研究部「ウィリアムオスラー医の心」</p> <p>④玉置俊晃・大学院医歯薬学研究部「薬と健康食品」 井本逸勢・大学院医歯薬学研究部「ヒトの遺伝学入門」</p> <p>⑤二川健・大学院医歯薬学研究部「宇宙食開発はおもしろい!? ～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～」</p> <p>⑥吉永哲哉・大学院医歯薬学研究部「先端数理に基づく画像診断・治療装置」</p> <p>⑦吉本勝彦・大学院医歯薬学研究部「内分泌腺の腫瘍化機構」</p> <p>⑧大高章・大学院医歯薬学研究部「創薬のすすめ」</p> <p>⑨豊田哲也・大学院社会産業理工学研究部「人文社会科学における仮説と検証とはなにか?」</p> <p>⑩親泊政一・先端酵素学研究所「小胞体ストレス応答と糖尿病」</p> <p>⑪荒木秀夫・教養教育院「“知性”を育む“運動”の学習とトレーニング」</p> <p>⑫辻明彦・大学院社会産業理工学研究部「知ってるようで知らない酵素の不思議」</p> <p>⑬安井武史・大学院社会産業理工学研究部「生体コラーゲン顕微鏡」</p> <p>⑭原口雅宣・大学院社会産業理工学研究部「我々の生活を変えた青いLEDについて」</p> <p>⑮依岡隆児・大学院社会産業理工学研究部「比較文化入門～複眼のススメ」</p> <p>⑯定期期末試験(レポート) ※所属は撮影当時のものです。</p>		☑
27. 授業時間外学習にかかわる情報	講義後に関連する事項について復習する		☑
28. 成績評価の方法と基準	<p>各回の課題と期末に実施する定期試験(レポート)の結果を総合的に判断し評価します。</p> <p>本授業は e-ラーニング形態でおこなうため、各回に課題が出ます。各回の課題の提出状況は、成績評価に反映します。また、LMS上のアクセス履歴は、出欠状況に替わるものとして成績評価の対象の要件のチェックに用います(各回の課題が5回以上未提出の場合は成績判定の対象として扱いません)。さらに、毎週定期的に教材にアクセスせず、定期試験の直前にまとめて視聴するといった振る舞いが認められた場合、成績評価に反映します(低い評価となる、あるいは、評価対象とならないといったことがあります)。</p> <p>単位修得の要件は、学修目標の6割以上とします。</p>		☑
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☐
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学30名・徳島大学50名・鳴門教育大学30名・高知大学30名・愛媛大学30名</p>		☑

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	この授業はe-ラーニングの形態でおこないます。基本的に、授業の進行は、皆さんの自主性に任せられます。皆さんは、計画的に学習を進めるよう注意してください(e-ラーニング形態は自由度が高い反面、多くの学生が、途中でリタイアしてしまうことが分かっています)。高度な自律性が求められることを理解した上、本科目を履修するようにしてください。			<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			教科書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>																																		
教科書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="width: 10%; text-align: center;">参考書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td style="width: 15%;">著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>			参考書1	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		<input type="checkbox"/>
参考書1	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書2	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
参考書3	書名																																																						
	ISBN		著者名																																																				
	出版社		出版年																																																				
	金額		備考																																																				
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/			<input type="checkbox"/>																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	<input type="checkbox"/>																																																				
37. 教員相互参観授業公開日程				<input type="checkbox"/>																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	問い合わせは、下記の電子メールにてお願いします		<input type="checkbox"/>																																																			
	連携大学 学生向け			<input type="checkbox"/>																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@		<input type="checkbox"/>																																																			
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@		<input checked="" type="checkbox"/>																																																			
40. 教員の実務経験				<input type="checkbox"/>																																																			

41. バリアフリー対応	日本語字幕付き	<input type="checkbox"/>
42. その他／備考		<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	創成科学科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	グローバル科目	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) モラエスの徳島 (英文名) Moraes' s Tokushima		
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) グローバリズムと異邦人 (英文名) Globalism and People from Abroad		
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kazuhide Kanenishi		
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 連携大学 学生向け	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け 連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	モラエス, 徳島, グローバリズム, 異文化理解, 異邦人 / Moraes, Tokushima, Globalism, Cross-cultural Understanding, Alien		
21. 授業概要	ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯とその作品を眺め、ゆかりの場所を紹介しながら、理解を深め、同時に異文化理解というものを考える。		<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	グローバルという言葉が声高に叫ばれているが、その根底には越境ということがある。政治、経済、科学技術、医療、環境、文化、芸術など、ありとあらゆるものが国境を超え全地球に及んで、複雑な問題を生み出している。複雑に絡み合った問題を解く手がかりは、ひとつの価値観に囚われることなく複数の視点で眺めてみることであろう。人や物、芸術、文化の往来と影響関係には長い歴史があるが、それも越境故に豊かなものになっている。その往来のひとつの例として、徳島のモラエスを取り上げてみたい。モラエスは、何回か日本にやってきた後に、1899年から日本で暮らし、その後1913年から16年の間庶民の中で暮らした。元ポルトガル海軍の軍人で後に在神戸ポルトガル領事となった人物だが、軍人、文人、外交官として、その当時の日本を、徳島を眺めて作品を書き残している。そこには現代のわれわれに対して示唆するものが多く含まれている。この授業を通して、グローバリズムと異邦人ということを考えながら、異文化の理解ということを考えてみたい。		<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	徳島に16年在住して亡くなったモラエスを取り上げ、異文化理解というものがどういうものか、現代のグローバリズムの中で考えてみることを目標とする。		<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 異邦人ということ 3. モラエスの生涯 4. モラエスの時代と同時代人—ラフカディオ・ハーン(小泉八雲) 5. モラエスの時代と同時代人—ジョーゼフ・コンラッド 6. モラエス顕彰の概観—戦前と戦後 中間試験(レポート) 7. モラエスの著作 8. 徳島のモラエス 9. モラエスの徳島 10. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1 11. 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2 12. 『おヨネとコハル』1 13. 『おヨネとコハル』2 14. 『日本精神』と異邦人のまなざし1 15. 『日本精神』と異邦人のまなざし2 期末試験(レポート) 	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報			<input type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>毎回の小課題(フォーラムへの投稿)と定期試験(レポート)を総合的に判断して成績の評価をおこないません。配点のめやすは各回の小課題30点(2点×15回)、中間試験20点、期末試験50点程度とします。単位修得の要件は、小課題、中間試験、期末試験でそれぞれ6割以上の評価を得ることとします。</p> <p>定期的にコースにアクセスして受講してください。定期試験の直前にまとめて視聴するといったことが認められた場合は、成績評価の要件を満たさないものとして扱います。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学30名・徳島大学30名・鳴門教育大学30名・高知大学30名・愛媛大学30名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>

31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	<p>モラエスが生きた時代と現代を比べながら、機会があればモラエスゆかりの場所を訪れて下さい。</p> <p>同時に、自分たちのふるさとに、自分たちの周りにモラエスのような人がいないか考えてみて下さい。</p>				☑																																																			
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3">徳島の盆踊り</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>モラエス著,岡村多希子訳</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>ことのは文庫</td> <td>出版年</td> <td>2010年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td>※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">教科書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">日本精神</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-88202-379-2</td> <td>著者名</td> <td>モラエス著,岡村多希子訳</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>彩流社</td> <td>出版年</td> <td>1996年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	徳島の盆踊り			ISBN		著者名	モラエス著,岡村多希子訳	出版社	ことのは文庫	出版年	2010年	金額		備考	※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません	教科書2	書名	日本精神			ISBN	4-88202-379-2	著者名	モラエス著,岡村多希子訳	出版社	彩流社	出版年	1996年	金額		備考		☑																	
教科書1	書名	徳島の盆踊り																																																						
	ISBN		著者名	モラエス著,岡村多希子訳																																																				
	出版社	ことのは文庫	出版年	2010年																																																				
	金額		備考	※著者(著作権者)から許諾を得てダウンロード可能。学生が購入する必要はありません																																																				
教科書2	書名	日本精神																																																						
	ISBN	4-88202-379-2	著者名	モラエス著,岡村多希子訳																																																				
	出版社	彩流社	出版年	1996年																																																				
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書1</td> <td style="width: 20%;">書名</td> <td colspan="3">おヨネとコハル</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-88202-915-4</td> <td>著者名</td> <td>モラエス著, 岡村多希子訳</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>彩流社</td> <td>出版年</td> <td>2004年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-88202-558-2</td> <td>著者名</td> <td>岡村多希子</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>彩流社</td> <td>出版年</td> <td>2000年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td></td> <td>出版年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	おヨネとコハル			ISBN	4-88202-915-4	著者名	モラエス著, 岡村多希子訳	出版社	彩流社	出版年	2004年	金額		備考		参考書2	書名	モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯			ISBN	4-88202-558-2	著者名	岡村多希子	出版社	彩流社	出版年	2000年	金額		備考		参考書3	書名				ISBN		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☑
参考書1	書名	おヨネとコハル																																																						
	ISBN	4-88202-915-4	著者名	モラエス著, 岡村多希子訳																																																				
	出版社	彩流社	出版年	2004年																																																				
	金額		備考																																																					
参考書2	書名	モラエスの旅ーポルトガル文人外交官の生涯																																																						
	ISBN	4-88202-558-2	著者名	岡村多希子																																																				
	出版社	彩流社	出版年	2000年																																																				
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	ISBN		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト</p> <p>https://chipla-e.ucel.kagawa-u.ac.jp/</p>				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目			☐																																																			
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jpまで電子メールで問い合わせてください。※(a)→@			☑																																																			
	連携大学 学生向け				☐																																																			

39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験			<input type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き		<input type="checkbox"/>
42. その他／備考			<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群	4. 授業形態／授業種 別	eラーニング
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	歴史と文化	6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 日本におけるドイツ兵捕虜1914－1920 (英文名) German Prisoners of War in Japan 1914－1920		
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 四国の収容所を中心に (英文名) Focusing on Camps in Shikoku		
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kazuhide Kanenishi		
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区 分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	全学部全学科
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 連携大学 学生向け	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け 連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード ／英文キーワード(3つ 以上5つ以下)	捕虜、第一次世界大戦、青島(チンタオ)、ドイツ prisoners of war, World War I, Quingdao, Germany		
21. 授業概要	第一次世界大戦における日本の青島攻略により、ドイツ兵などの捕虜約5000人が日本各地に抑留された。とりわけ徳島県にあった板東俘虜収容所では、捕虜たちの文化上・経済上の諸活動や地元住民との交流がさかんにおこなわれ、彼らによってベートーヴェンの第九交響曲全曲が日本ではじめて演奏された。この講義では、当時の日本各地の収容所—特に四国の収容所—における捕虜の活動や日本側の対応などについて、最近発見された資料なども用いてさまざまな事実を紹介する。また、これについて、日独交流史や捕虜待遇の歴史というより広いコンテキストの中で、多面的な考察の視点を提供したい。そのため、時として担当教員以外の先生や関係者にも講義やインタビューによるお話をいただいたり、関連の場所を訪れたりする。		<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	第一次世界大戦時の在日ドイツ兵捕虜の活動や日本人との交流について知り、捕虜とその収容という状況を手掛かりに、戦争や国際文化交流について考察のきっかけとする。		<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標 ／学修課題	1. 人口に膾炙した「伝説」によるのではなく、客観的な事実や資料に即して、ドイツ兵捕虜の諸活動や日本側の対応について正確な知識を得る。 2. 当時の日本による捕虜待遇や捕虜に関わる日独文化交流を、より広い共時的、通時的なコンテキストの中で位置づける。 3. レポート提出を通じて、学術的文章の書き方の基礎を身につける。		<input checked="" type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。板東を訪れる。 2. 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。 3. ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。 4. 九州の収容所(久留米、福岡、熊本、大分) 5. 中国・近畿の収容所(姫路、青野原、似島、大阪) 6. 関東・東海の収容所(名古屋、静岡、東京、習志野) 7. 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン？ 8. 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。 9. 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』 10. 板東収容所(1)。収容所新聞『ディ・バラツケ』。活発な音楽活動。 11. 板東収容所(2)。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。 12. 日本に関わった元捕虜。ポーネルとマイスナー。 13. 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。 14. 捕虜待遇の歴史(世界と日本) 15. 捕虜待遇の歴史(捕虜と「武士道」) 16. 定期試験(レポート) 	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報	各授業のビデオを見て、1)内容の自分なりのまとめ、2)感想ないし考察、3)質問、をA4一枚程度で書いてシステムで送付すること。質問については、特にない場合は書かなくてもよい。以上毎回の授業に関する小レポートに加えて、授業で扱った事柄のひとつをテーマに選んで、2000字以上で最終レポートを提出してもらう。執筆時の留意点については、メッセージの欄を参照のこと。		<input checked="" type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	上記の小レポートの合計が6割、最終レポートが4割の配点で評価する。合格点に達しない場合、レポートの書き直しを指示する。		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし。	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学15名・徳島大学15名・鳴門教育大学15名・高知大学15名・愛媛大学15名		<input checked="" type="checkbox"/>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	e-learningの利点を生かし、フィールドでのビデオや写真などの画像を多く取り入れた。また、双方向性の確保のため、質問への回答やレポートへのコメントなども適宜おこなう。 レポート執筆のさいには次の点に留意すること。1)参考文献その他の資料からの引用や要約については出典や引用箇所を明示し、文献などの意見や情報を自分の意見やみずから調べた情報のように書かないこと。コピーやそれに類する行為が判明した場合は厳しく対処する。2)得た知識の羅列にとどまらず自分の意見も述べる必要があるが、そのさい根拠や具体例を挙げて客観的な説得力を持たせるよ		<input checked="" type="checkbox"/>

	うに努めること。情緒的でなく論理的な文章をめざすこと。3)特に最終レポートについては、できれば二つ以上の文献や資料を参照すること。また、広いテーマを選んでしまうと、概論的なものになって執筆者の独自性が感じられないものになりがちであるから、限定されたテーマを扱う方がよい。																																																																																									
32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1" data-bbox="371 405 1414 607"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">教科書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>4-8102-0450-2</td> <td>著者名</td> <td>瀬戸武彦</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>同学社</td> <td>出版年</td> <td>2006年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				教科書1	書名	『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』			ISBN	4-8102-0450-2	著者名	瀬戸武彦	出版社	同学社	出版年	2006年	金額		備考		<input checked="" type="checkbox"/>																																																																				
教科書1	書名	『青島から来た兵士たち—第一次大戦とドイツ兵俘虜の実像』																																																																																								
	ISBN	4-8102-0450-2	著者名	瀬戸武彦																																																																																						
	出版社	同学社	出版年	2006年																																																																																						
	金額		備考																																																																																							
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1" data-bbox="371 645 1414 1731"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書1</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『どこにしようよ、そこがドイツだ』</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>田村一郎(編著)</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>2006年(第3版)</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書2</td> <td>書名</td> <td colspan="3">『ディ・バラック』(1-4巻)</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>鳴門市ドイツ館史料研究会 訳・編集</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>1998年—2007年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書3</td> <td>書名</td> <td colspan="3">CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>ドイツ館史料研究会訳・編集</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>鳴門市ドイツ館</td> <td>出版年</td> <td>2012年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書4</td> <td>書名</td> <td colspan="3">板東俘虜収容所</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td></td> <td>著者名</td> <td>富田弘</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>法政大学出版局</td> <td>出版年</td> <td>1991年、(新装版)2006年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td></td> <td>備考</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">参考書5</td> <td>書名</td> <td colspan="3">松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォアア—」</td> </tr> <tr> <td>ISBN</td> <td>978-4-86087-149-9</td> <td>著者名</td> <td>鳴門市ドイツ館史料研究会</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>愛媛新聞社</td> <td>出版年</td> <td>2019年</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>2,800円</td> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>				参考書1	書名	『どこにしようよ、そこがドイツだ』			ISBN		著者名	田村一郎(編著)	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2006年(第3版)	金額		備考		参考書2	書名	『ディ・バラック』(1-4巻)			ISBN		著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会 訳・編集	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	1998年—2007年	金額		備考		参考書3	書名	CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」			ISBN		著者名	ドイツ館史料研究会訳・編集	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2012年	金額		備考		参考書4	書名	板東俘虜収容所			ISBN		著者名	富田弘	出版社	法政大学出版局	出版年	1991年、(新装版)2006年	金額		備考		参考書5	書名	松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォアア—」			ISBN	978-4-86087-149-9	著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会	出版社	愛媛新聞社	出版年	2019年	金額	2,800円	備考		<input checked="" type="checkbox"/>
参考書1	書名	『どこにしようよ、そこがドイツだ』																																																																																								
	ISBN		著者名	田村一郎(編著)																																																																																						
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2006年(第3版)																																																																																						
	金額		備考																																																																																							
参考書2	書名	『ディ・バラック』(1-4巻)																																																																																								
	ISBN		著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会 訳・編集																																																																																						
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	1998年—2007年																																																																																						
	金額		備考																																																																																							
参考書3	書名	CD「トクシマ・アンツァイガー —徳島俘虜収容所新聞—」																																																																																								
	ISBN		著者名	ドイツ館史料研究会訳・編集																																																																																						
	出版社	鳴門市ドイツ館	出版年	2012年																																																																																						
	金額		備考																																																																																							
参考書4	書名	板東俘虜収容所																																																																																								
	ISBN		著者名	富田弘																																																																																						
	出版社	法政大学出版局	出版年	1991年、(新装版)2006年																																																																																						
	金額		備考																																																																																							
参考書5	書名	松山のドイツ兵捕虜と収容所新聞「ラーガーフォアア—」																																																																																								
	ISBN	978-4-86087-149-9	著者名	鳴門市ドイツ館史料研究会																																																																																						
	出版社	愛媛新聞社	出版年	2019年																																																																																						
	金額	2,800円	備考																																																																																							
34. Webテキスト(URL・説明)	<p>「チンタオ・ドイツ兵俘虜研究会」ウェブサイト: http://koki.o.oo7.jp/tsingtau.html http://www.niji.jp/home/akagaki/D-indexb.html</p> <p>大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucl.kagawa-u.ac.jp/</p>				<input checked="" type="checkbox"/>																																																																																					
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等/本科目受講が必要となる資格等/資格取得該当科目		<input type="checkbox"/>																																																																																						
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>																																																																																					

38. オフィスアワー	自大学 学生向け	質問などについては、下記連絡先を参照のこと。	<input type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け		<input type="checkbox"/>
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。	<input checked="" type="checkbox"/>
	連携大学 学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。	<input checked="" type="checkbox"/>
40. 教員の実務経験			<input type="checkbox"/>
41. バリアフリー対応	日本語字幕付き		<input type="checkbox"/>
42. その他／備考			<input type="checkbox"/>

2023年2月改訂

シラバス基本情報

1. 開講年度	2026	2. 開講学期	後期
3. 開講学部・学科等 ／区分等	教養科目群	4. 授業形態／授業種別	eラーニング
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	生活と社会	6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング	
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 現代科学と研究倫理 (英文名) Modern science and research integrity		
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) (英文名)		
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 金西計英 (ローマ字) Kanenishi, Kazuhide		
10. 時間割コード／申請コード／授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数	2	13. 選必区分／単位区分	
14. 対象学生	全学部全学科	15. 対象年次／区分等／標準履修年次	
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け 連携大学 学生向け	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け 連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	研究倫理、研究不正、捏造・剽窃・偽造、改ざん、盗用 /research ethics, research misconduct, FFP(fabrication, falsification, plagiarism)		
21. 授業概要	本授業では、現代社会における科学技術に目を向けることから始める。現在の生活は、科学技術の成果によって成り立つことから、研究とは何かについて考える。現代の研究は、多岐にわたることから、多様な研究分野に触れ、いろいろな研究フィールドに内在する倫理上の問題を、具体的な事例に基づき考える。また、企業との関わりについても触れる。		<input checked="" type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	科学技術の発展は、我々の生活に恩恵をもたらした。一方、研究が細分化、専門化されることで、研究を身近に感じる事が難しくなってきた。その結果、研究に起因する問題が発生し、大きな社会問題となる危険性を孕んでいる。我々自身がそうした問題に巻き込まれるかも知れない。我々は、研究とは何か、研究とは誰のためにおこなうのかといった問題から始め、研究者の倫理とは何か、社会にとって研究はどうあるべきか、といった問題を自らの問題として考える必要がある。この授業は、学部の学生を対象に、大学でおこなわれている研究についての理解を深め、研究の倫理について目を向け、自覚を持つことを求める。		<input checked="" type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題			<input type="checkbox"/>

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール ／授業計画並びに授業及び学習の方法	<p>①金西 計英・高等教育研究センター「研究倫理の進め方」(ガイダンス)</p> <p>②石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「現代社会における科学技術」</p> <p>③齊藤 隆仁・教養教育院「研究と不正行為」</p> <p>④佐藤 高則・大学院社会産業理工学研究部「生命科学系の研究と倫理」</p> <p>⑤楊河 宏章・大学病院「臨床(医療系)研究と倫理」</p> <p>⑥山本 真由美・大学院社会産業理工学研究部「心理学系の研究と倫理」</p> <p>⑦内藤 直樹・大学院社会産業理工学研究部「社会科学系の研究と倫理」</p> <p>⑧山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅰ」</p> <p>⑨山中 英生・大学院社会産業理工学研究部「工学系の研究と倫理Ⅱ」</p> <p>⑩松本 高広・大学院医歯薬学研究部「動物を扱う研究と倫理」</p> <p>⑪勢井 宏義・大学院医歯薬学研究部「研究ノートとデータ管理の実践」</p> <p>⑫金西 計英・高等教育研究センター「出版の倫理と論文」</p> <p>⑬織田 聡・研究支援・産官学連携センター「知的財産権」</p> <p>⑭織田 聡・研究支援・産官学連携センター「企業と研究倫理」</p> <p>⑮石田 三千夫・大学院社会産業理工学研究部「科学技術と倫理」</p> <p>⑯定期試験(レポート) ※所属は撮影当時のものです</p>	<input checked="" type="checkbox"/>	
27. 授業時間外学習にかかわる情報			<input type="checkbox"/>
28. 成績評価の方法と基準	<p>各回の小課題と最終課題(期末レポート)を総合的に判断し、成績評価をおこないます。</p> <p>各授業回では単にビデオを視聴するだけではなく、小課題に取り組み、期限内に提出してください。</p> <p>単位修得の要件は学修目標の6割以上とします。ただし、各回の小課題提出回数が10回未満の場合は成績判定の対象として扱いません。</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	<input type="checkbox"/>
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	<p>受講人数制限:あり</p> <p>香川大学20名・徳島大学40名・鳴門教育大学20名・高知大学20名・愛媛大学20名</p>		<input checked="" type="checkbox"/>
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの			<input type="checkbox"/>

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得」			<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名	『日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)』	
		出版社	丸善出版	出版年	2015	
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				<input type="checkbox"/>
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ウェブサイト https://chipla-e.ucl.kagawa-u.ac.jp/				<input type="checkbox"/>	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等/本科目受講が必要となる資格等/資格取得該当科目		<input type="checkbox"/>		
37. 教員相互参観授業公開日程					<input type="checkbox"/>	
38. オフィスアワー	自大学学生向け	電子メール(marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp) ※(a)→@で問い合わせること。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け				<input type="checkbox"/>	
39. 連絡先/学生相談場所/学生開示用メール	自大学学生向け	徳島大学 教養教育6号館 人と地域共創センター 3階 金西研究室 e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。			<input type="checkbox"/>	
	連携大学学生向け	e-mail: marukin(a)cue.tokushima-u.ac.jp ※(a)→@で問い合わせること。			<input checked="" type="checkbox"/>	
40. 教員の実務経験					<input type="checkbox"/>	
41. バリアフリー対応					<input type="checkbox"/>	
42. その他/備考					<input type="checkbox"/>	

